

TEAM TARO ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2021 Round.2 SUZUKA 2&4



藤本電機工業



TARO SEKIGUCHI

SANMEI Team TARO PLUSONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT #9

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦 2021 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース

三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

クラス: JSB1000 マシン: BMW S1000RR タイヤ: BRIDGESTONE

2021年4月24日(土) 天候: 曇り コース: ドライ

レース1 予選: 15番手 (タイム: 2分08秒587) 決勝: 10位

2021年4月25日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ

レース2 予選: 15番手 (タイム: 2分08秒657) 決勝: 12位

観客動員数: 16,500人 (2日間合計)

TARO



ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2021 Round.2 SUZUKA 2&4

TARO

TEAM

TARO 新たな方向性が見えた鈴鹿 2&4 レース

TARO SEKIGUCHI



開幕戦ツインリンクもてぎから3週間のインターバルで迎えた第2戦鈴鹿2&4レース。前戦でメインエンジンが壊れてしまい、急ぎよエンジンを探すことになってしまっていた。昨年使っていたエンジンを使う事も考えたが、距離を走っていたため、今回は、町乗りのBMW S1000RRと同じスタンダードエンジンで臨むことを決めていた。今回の鈴鹿2&4レースのレース1は、鈴鹿8耐のトライアウトを兼ねており、67台ものエントリーを集めていた。スポット参戦ライダーも多く、関口にとっては難しいレースになることが予想された。しかし、今回はチームにとってプラス要素もあった。それはベテランメカニックの頼成氏が加わったことだ。これまででも少数精鋭で戦ってきたTeam TAROだが、頼成氏がいることで、現場でできる選択肢が広がったからだ。



事前テストはなく、木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタート。今までネガだった部分を解決するために今まで以上に、いろいろなセットを試すことができ、新たなマシンの方向性が見えて来ていた。それは同時にチーム自体の新たな方向性にもつながっていた。走り始めると、やはりスタン

ダードエンジンは、周りに比べると厳しい部分があったが、公式予選では単独走行で2分08秒台をマーク。両レースとも15番手グリッドからスタートすることになっていた。



14周で争われたレース1。関口は好スタートを切り11番手でオープニングラップを終える。2周目に1台にかわされるが、そのままポジションをキープ。3周目に多重クラッシュが発生し、セーフティーカーが入る。このセーフティーカーランは5周に渡って続き、タイヤをいかに冷やさないかがカギを握っていた。ようやくリスタートとなるタイミングで1台がトラブルでピットに、1台が最終コーナーで転倒したため2つポジションアップ。三つ巴の8位争いを繰り広げていたが、前に出ることはできず10位でゴール。



日曜日のレース2では、スタートで出遅れてしまい20番手くらいまでポジションダウン。オープニングラップは、18番手で戻ってくるが、そこから1台、また1台とポジションアップ。セクター1で抜き、テクニカルな部分で後続を引き離し、ストレート部分で追いつかれない展開に持ち込んでいた。9周目には、柳川選手をかわし、前を行くライダーを追う。レース終盤に一時は、前に出るものの、ストレートで抜き返されてしまい、そのまま12位でゴール。順位は満足できるものではなかったが、レース内容は次戦につながるものとなったのだった。

■関口太郎コメント

「三明電気工事様をはじめ、スポンサーの皆様、応援してくださっている多くの皆様、いつもありがとうございます。今回の鈴鹿2&4は、街乗り仕様のままのスタンダードエンジンで厳しい戦いとなりましたが、予選では単独で2分08秒台、決勝でも2分08秒前半、区間ベストを繋げれば2分07秒台に入る走りのできたのはよかったです。次戦SUGOまでには少しでもマシンをアップデートし、上位へ食いついて行ってやろうと思っていますので、今後とも応援よろしくお願いたしますたします」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com